

全国保健所長会 だより

はじめに

平成30年度全国保健所長会研修会は、平成31年1月28日、29日にタワーホール船堀で開催されました。テーマは「これからの保健所の形と機能」、サブテーマは「公衆衛生医師確保」西日本豪雨とDHEAT活動「保健所の設置形態と機能」の3つでした。講演の抄録および資料は、全国保健所長会ホームページ（<http://www.phcd.jp/02/kensyu/>）をご覧ください。

公衆衛生医師確保

1日目は、宮崎親副会長のあいさつの後、和歌山県湯浅保健所の松本政信所長を座長に、①公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー（PHSS）について（宮崎市保健所 西田敏秀所長） ②公衆

平成30年度 全国保健所長会研修会報告

新潟県南魚沼保健所長／全国保健所長会 研修担当理事 中山均

衛生医師確保 全国衛生行政研究会の調査結果より（滋賀県甲賀保健所 嶋村清志所長） ③地域枠医学生等に対する取り組みについて（長崎県立保健所における学生実習の紹介）（長崎県五島保健所 近藤徹所長）の講演が行われました。

西田所長は、PHSSは平成24年から「公衆衛生に係る人材の確保・育成に関する研究班」の実践事業として開催され、公衆衛生分野に関心がある医師、医学生のほか、入職後5年以内の医師も対象とし、例年約30～40名の参加があることを報告されました。「公衆衛生医師をアピールする絶好の機会なので、今後も継続していきたい」と語られました。

嶋村所長は、過去に実施した医師確保についての調査および公衆衛生医師に対するアンケート

結果を基に、公衆衛生医師の確保・育成とその課題を報告されました。社会医学系専門医研修プログラムが各自自治体等にでき、専攻医等、公衆衛生医師を目指す者にはキャリア形成の全体像が見えてきたとの報告もあり、「今後に期待が持てる」と話されました。

近藤所長は、長崎県の離島の保健所長になるまでの経歴や長崎大学の依頼を受けて行った地域枠医学生等への実習の取り組みを紹介されました。

総合討論では、名古屋市保健所長より、公衆衛生医師定着のための取り組みとして、入職1年目は公衆衛生医師を名古屋市中保健センターに集めること、仕事内容も公衆衛生医師の仕事のみとして、「公務員としての雑用はなし」との報告がありました。

災害時保健医療ニーズ、活動の経時的変化とDHEATのフェーズに合わせた指揮調整への支援、さらに、KurADROの組織体制の問題点やDHEATロジックとの関係性も言及されました。

松本次長は、長崎県DHEATチームの派遣までの対応をロジック担当の立場からお話しされ、長崎県のDHEAT人材育成の取り組みも紹介いただきました。

総合討論では①発災後DHEATが入る時期 ②DHEATとの調整・関係 ③地域医療の確保、について討議されました。①については、「現実的に県外DHEATの72時間以内のマッチングは難しい」「北海道胆振東部地震の経験からDHEAT第一班は都道府県内支援がよい」との意見が出ました。また、「組織上KurADROの上に保健所が2つあったのでDHEATとの指揮命令系統に混乱が生じた」「DHEATロジックは機動力があるのでしばらくの間は、その力を活用するのにも有効」との意見が出ました。地域医療に関しては、「DHEAT活動は短期にとどめ、早めに引き上げてもらった方が地元医療機

関の再生につながる」との意見がありました。最後に座長が、「今回は初めてのDHEAT派遣であった。課題はあるものの、全体的には上手いきき、今後につながると思う」とまとめました。

保健所の設置形態と機能

2日目の午後は、神奈川県厚木保健所の長岡正所長を座長に、①町域保健所業務を受託した市保健所の運営について（鳥取市保健所 長井大所長） ②県・市共同設置保健所の運営について（松江保健所 村下伯所長） ③管内人口の少ない特別区保健所の運営について（千代田区千代田保健所 渡部裕之所長）の講演が行われました。

長井所長は、鳥取市の保健、医療、福祉等の組織体制や中核市移行による県と市との連携協約について、また中核市保健所に移管後の東部4町との具体的な関わりや二次医療圏の中で果たすべき保健所機能の展望と課題について説明されました。

村下所長は、共同設置保健所の概要や特徴について説明されるとともに、「一人の所長の下、保健所職員は中核市保健所業務と都道府県保健所業務の両方を行

休憩の後、福岡県北筑後保健所の宮崎親所長を座長に、社会医学系専門医協会指導医講習会「行政プログラムにおける大学等との連携に関するシンポジウム」が開催されました。「福岡県社会医学系専門医研修プログラム」について、プログラム事務局と担当指導医の立場から福岡県田川保健所の中村泰久所長、専攻医の立場から同保健所健康増進課精神保健係の木村竜太先生、また、大学と連携したプログラムにおける専攻医の育成について、福岡県北保健所の加藤清司所長から「福岡県社会医学系専門医研修プログラム」について、講演と討論が行われました。

西日本豪雨とDHEAT活動

2日目の午前は、宮崎県延岡保健所の瀧口俊一 所長を座長に、①平成30年7月豪雨における倉敷市真備町の被災状況について（岡山県備中保健所 毛利好孝所長） ②西日本豪雨災害とDHEAT活動（リーダー）（保健所長）の役割について（長崎県南保健所 宗陽子所長） ③西日本豪雨災害とDHEAT活動（ロジック担当）の役割について（長崎県中央保健所 松本恵理

うことになるが、県と市の仕事の仕方にはそれぞれの文化があるので、お互いに理解し、乗り越えることが求められる」と話されました。

渡部所長は、千代田区保健所の沿革と特殊性について説明され、特徴的な業務として「民泊指導課」が設置されていること、東京都受動喫煙防止条例に基づく特別区（保健所）の役割が求められること、東京2020年オリパラに向けた健康危機管理体制の整備等を紹介されました。

総合討論では今後中核市へ移行予定の自治体の紹介や、中核市へ移行した際のメリット、デメリットなどについて質疑応答が行われました。

おわりに

今年度の研修会は、公衆衛生医師不足を実感する一方、さまざまな取り組みや社会医学系専門医研修プログラムの整備等で少しずつ改善する気配も感じられました。DHEATに関しては、初めての派遣の経験が全国の保健所長等の共通認識になることを期待します。